

**ワークショップ：  
人文学・社会科学における質的研究と量的研究の連携の可能性  
第一回研究会**

現在の社会学およびその周辺領域では、いわゆる質的研究と量的研究の連携がスムーズに進んでいるとは言えず、むしろ研究プロジェクトは「質と量」で別々に動いているケースが目立ちます。このような現状を鑑み、質的研究と量的研究の性質について、それぞれの研究実践がいかにして知識の妥当性を確保しているのかについて根本から議論するものです。

研究会では、討議の時間を多めにとって、「前提を置かない議論」ができるように工夫して行う予定です。

**報告**

(1) 「計量分析手法はどのようになされているのか：回帰分析を中心に」 筒井淳也

社会学その他の分野で利用されている統計学・計量分析の手法（主に回帰分析）について、その方法がいかなる意味において知識の妥当性を保証しようとしているのかについて、分析手法の簡単な解説をもとに報告をします。

(2) 「科学的説明に関わる基本的な語彙についてのおさらい」 酒井泰斗

社会（科）学方法論の基本的な出発点の一つは、「実験ができない場合、どのような次善の策が講じられるか」という問いにあったといつてよいでしょう。ここではその手前にある「実験は何のために・どのように行われるのか」という問いについて——またそれと関連して、科学的推論・科学的説明・科学的理論などについて——科学哲学者たちの標準的な見解をおさらいしていただくことで、本研究会の今後の議論に資することを目指したいと思います。

**日時・場所等**

**日時：**9月19日（月）11:00～（終了時間は決めていませんが、会場は18:00までとっています。終了後懇親会を開催しますので、下記にご連絡の際はこちらの参加意向もお知らせください。）

**場所：**立命館大学衣笠キャンパス末川記念会館第3会議室

アクセスはこちらから → [http://www.ritsumei.jp/accessmap/accessmap\\_kinugasa\\_j.html](http://www.ritsumei.jp/accessmap/accessmap_kinugasa_j.html)

**主催：**立命館大学人文科学研究所 ([http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rsc/hss/hss\\_index.htm](http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rsc/hss/hss_index.htm))

同大学大学院社会学研究科筒井淳也研究室 (<http://homepage3.nifty.com/sociology/>)

**参加：**自由。ただし事前に竹内麻貴（立命館大学大学院社会学研究科大学院生）まで連絡してください（アドレスは下記）。万が一会場の定員を超える場合には、参加制限をさせていただくこともあります。

[so054054@ed.ritsumei.ac.jp](mailto:so054054@ed.ritsumei.ac.jp)